

「子ども読書活動推進フォーラム」の開催にあたって

神奈川県立図書館長 松井 聡明

本日は、「令和2年度神奈川県子ども読書活動推進フォーラム」をご視聴いただきありがとうございます。「子ども読書活動推進フォーラム」については、本来、令和2年12月12日（土）に、神奈川県近代文学館で開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の急速な拡大の状況等を踏まえ、このような形で実施させていただくこととしたものです。内容としては、当日ご講演いただく予定であった絵本作家、浜田桂子先生から、「あなたが生まれたのは、すごいこと」と題し、当初予定していたご講演の内容に沿いながら、様々なお話をさせていただいています。浜田先生におかれましては、お忙しい中ご出演いただきましたことを、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

さて、今年はこのような形となりましたが、「子ども読書活動推進フォーラム」は、子どもの読書活動の普及・啓発・推進を図ることを目的に、平成16年度から開催しており、ご参加の皆様から、毎回大変ご好評をいただいています。また、子どもの読書活動に関しては、学校や地域等において、多くの皆様のご協力のもと、読み聞かせなど様々な活動が展開されているところです。しかし、コンピュータゲーム、インターネットやスマートフォンの普及など、近年の、子どもたちを取り巻く急激な環境変化等に伴い、本県の子どもたちの「読書離れ」は深刻な状況にあります。一例として、文部科学省の全国学力・学習状況調査における「平日の読書量が10分以上の児童・生徒の割合」をみますと、本県は、全国平均を下回っており、また、学年が進むにつれて、この数値が悪化する傾向も見られています。

こうした状況等を踏まえ、神奈川県教育委員会では、平成31年3月に「第四次神奈川県子ども読書活動推進計画（かながわ読書のススメ）」を策定いたしました。この計画では、『友のように いつも そばに 一冊の本を』～本との出会い、本から拓く心のつながりを大切に～』をスローガンに、市町村や関係機関・団体などと連携・協力しながら、「ファミリー読書の推進」など、様々な取組を推進しているところです。

「子ども読書活動推進フォーラム」に代わる本企画も、こうした取組の一環ですが、昨今のコロナ禍において、子どもの読書活動に様々な面で影響や制約などが出ていることと存じます。一方で、最近では、児童書の売り上げが伸びているとの報道などもあり、いわゆる巣籠り生活の中で、読書に関する興味や関心が、高まっている一面もあるのではないかと思います。いずれにいたしましても、先行きの見通せない、厳しい状況にありますが、「ニューノーマル社会」における、子どもの読書活動の推進等に、引き続きご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

結びにあたり、私は、読書とは、「頭と心の貯金箱」のようなものではないかと考えています。一般的に、読んだ本が、直ぐに何かの役に立つようなことは少ないと思いますが、読書により蓄えられた知識や知恵、多面的なものの見方、あるいは情操や創造性などが、何か困った時、あるいは必要な時に自分を助け、支えてくれる、そのようなものではないかと考えます。本企画が、皆様にとって、こうした読書の習慣や読書活動のきっかけづくり、あるいは支援活動の一助となれば幸いです。

令和3年2月9日